

規模拡大した酪農場に対する生産性向上への取り組み

み：伊那家保 林 陽子

管内酪農場において、後継者の就農希望のため、令和2年から畜産クラスター事業等を活用し規模拡大。増頭や機械導入により、乳量の増加、作業の効率化、耕作面積が拡大。しかし、導入牛の死亡、廃用、黄色ブドウ球菌(SA)が増加。増頭による課題が確認された。そこで、家保では主に酪農生産性向上対策事業を用いて支援。1 生乳品質、乳質の改善では今年6月補正事業を活用。個体乳全頭細菌検査でSA陽性牛を特定。分房別細菌検査、薬剤感受性試験を実施。SA対策として牛の並び替えを提案。その結果、令和5年後期バルク乳検査でSA陰性。2 飼養環境の快適性向上指導では、風量及び牛舎内温度を測定。3 牛群ドックでは代謝プロファイルテスト(家保)、飼料給与診断及び飼料分析(農業農村支援センター)を実施し、飼料給与状況について検討。4 繁殖性の向上では、診療獣医師と連携して繁殖検診を実施。今後も関係機関や診療獣医師と連携し支援を続け、農場の生産性向上を図って行きたい。